

保育随想

★ 季節は変わる！

年末の気忙しさから、新年に向けての期待や希望を抱いてお正月も迎えられて、令和3年に入りました。昨年の中頃からは、中国から発生したコロナ菌の感染拡大が私たちの生活の意識を一変させてしまう事に成ることまで想像が出来ませんでした。日々の生活はもとより世の中の活動の全てが、感染防止の対策を取らざるを得なくなり、行われて来た殆どの行事が中止または延期の状況に追い込まれて来た一年でありました。連日、感染者の人数が報じられ、感染拡大の為の施策が報じられる中で、お仕事は兎も角、家庭生活での目に見えぬコロナ禍での生活は、活動にも制限が掛り、終わりの見えない生活を強いられて来ております。

リモートとかテレワークなどの仕事体系も、それぞれのお立場で功罪は別にして、当然の流れとして形付いておりますのも、コロナ禍での生活になりました。身の回りから、ひしひしと自分の方に迫って来るコロナ感染の怖さを感じながらの生活に、私の近所に住むお年寄りの方が、こりゃ、戦争だね！あの時と似てるね！という話を聞かされました。始まりが有れば終わりが有るものです。ワクチン接種の行き渡りが終息の目途として、私達も期待をしたいと思えます。言ってみれば、そんな戦時下の生活ではありますが、確実に自然は移り変わっております。地球も回っております。年々歳々花相似たり、歳歳年年日と同じからずと詠われて参りました。地球の上では、今回のようなコロナの大騒動が起きておりますが、一方では、冬来たりなば春遠からじ、草木も花の開花の準備も進めているのです。私達も少し先の世界があることを思い、この時期を過ごして参りましょう。毎年、この季節を迎えるたびに思い起こされる歌があります。それは、早春賦です！

春は名のみ風の寒さや、谷のウグイス歌は思えど、時にあらうずと 声も立てず
時にあらうずと 声も立てず
氷解け去り葦は角ぐむ さては時ぞと思ふあやに 今日もきのうも雪の空
今日もきのうも雪の空
春と聞かねば知らでありしを 聞けば急がるる胸の思いを いかにかよとのこの頃か
いかにかよとのこの頃か

寒村に立ち山並みに目向けて、木立の陰に生きる小さな生きもの息遣いにまで心が行く感性に感動するのです。一つ一つに丁寧に気持ちを込めるとき、果てしなく広がる世界も見えて来るのでしょうか。目の前のことに追われる日々ですが、命の歩みはこれからも続くのであります。今までの自分の歩みに立ち返り、これからの歩みに彩を添えるのも自分でもあります。口癖のように、大丈夫！大丈夫！唱えて生きて参りませんか。園庭で遊ぶ子ども達は守られています。私達も同じようにいろいろな人に守られていることに感謝して。